



エファジャパン歳末募金2022  
2022年11月21日(月)～2023年1月30日(月)

この冬、子どもたちにも  
本をプレゼントして  
くれませんか？



## エファジャパンは “本の飢餓”をなくすために活動しています。

エファは日本全国の自治体、公立病院、保育所、福祉施設、交通機関、上下水道などの公共サービスに従事する人たちが行ってきた国際協力事業「アジア子どもの家」を引き継ぎ、2004年に設立された国際協力 NGO です。貧困や障害のために学校へ行けない子どもたちの権利を守り、初等教育の推進や児童労働の削減、障害児のライフスキル向上に取り組んでいます。



「チルドレン・スタディ・クラブ」で学ぶポリーさん

文字の読み書きに苦労していました。

ポリーさんが「チルドレン・スタディ・クラブ」に参加するようになって、しばらく経ったある日のこと、両親に一枚の紙を手渡します。そこに書かれていたのは両親の名前でした。

障害がある娘が親にとっても難しい文字を学び、父と母の名前を書いてくれた。文字を見ながら、両親は涙を流したそうです。子どもたちが「小さな成功体験」を積むことは、家族や地域にも希望をもたらすのです。

### エファから始まる自分ものがたり

エファは現地パートナーとともに、カンボジアで「チルドレン・スタディ・クラブ」を設置。障害がある子どもたちが集い、ともに学ぶ場を提供しています。

そこへ通うデイン・ポリーさんは知的障害児です。障害児教育の行き届いていない地域で、ポリーさんの学校の成績はよくありません。農業を営む両親も、内戦の影響で学校に通うことができなかったため、日常生活で

## この冬、子どもたちに本を プレゼントして くれませんか？

- 5,000 円で、まだ絵本を知らない子どもたちへ絵本 15 冊を届けることができます。
- 10,000 円で、絵本 30 冊を届けることができます。
- 30,000 円で、本を読むのが困難な障害児のための電子図書を提供できるタブレット 1 台を届けることができます。
- 50,000 円で、障害児が集い学ぶ居場所で「子どもの人権宣言」を学ぶトレーニングワークショップを開催することができます。
- 100,000 円で、絵本やタブレットを積んで学校を回る移動図書館の運営費 1 ヶ月分を賄うことができます。

困難の中にある子どもたちが「自分ものがたり」を描けるように、エファは本を届け続けます。

ご支援をよろしくお願いいたします。

エファジャパンは認定 NPO 法人です。

寄付総額のうち約 40% の税額控除を受けることができます。詳細はエファ HP をご確認ください。

### エファジャパン歳末募金 2022

- 期間** 2022年11月21日(月)～2023年1月30日(月)
- 銀行振込** 中央労働金庫(2963)市谷支店(299) 普)1442725トクヒ)エファジャパン  
三菱UFJ銀行(0005)市ヶ谷支店(014) 普)1340692トクヒ)エファジャパン  
※寄付金受領書を発行します。お振込み後、事務局までメールまたは電話でご連絡ください。
- 郵便振替** 00190-6-723415 加入者名)エファジャパン  
※寄付金受領書を発行します。払込取扱票通信欄に「歳末募金」とご記入ください。
- クレジットカード** 下記QRコードもしくは「Syncable(もしくは、シンカブル)」→「エファジャパン」でネット検索  
エファジャパンページのキャンペーン「エファジャパン歳末募金2022」へ

エファ公式 HP  
歳末募金サイト



Syncable  
キャンペーンページ



# 「本の飢餓」撲滅に向けたエファの取り組み



## 農村部に暮らす障害児の支援

カンボジア農村部のカンボット州ドントン郡は内戦時に激しい戦闘が行われ、経済的な困難を抱える家庭が多い地域です。2022年度、こうした地域に暮らす障害児のために「チルドレン・スタディ・クラブ」を3ヶ所設置しました。子どもたちが読み書きや計算などを学び合うとともに、親同士の交流の場ともなり、生きるために必要な情報を届けています。



## 障害児の図書室利用トレーニング

カンボット州教育局と協力し、日本の専門家によるアドバイスも取り入れ、障害児に図書館の利用方法、本の読み方や資料の使い方、読書の重要性などを教えています。また保護者に対して学習サポート方法を伝えています。



エファジャパン理事・事務局長 関尚士

## エファからのメッセージ

世界がコロナ禍に苦しみ3年が経とうとしています。エファが18年間向き合ってきた国々で生きる農村部の人たち、障害がある子どもたちにとって、一層困窮した時間となりました。

一方で一筋の光も見えてきました。オンラインの普及によって情報が身近になり、生きるための知識を学び、貧困の壁から這い上がっていきける。自分だけでは克服できなかった「社会的な障害」＝周囲の人々の固定観念や地域社会の古い価値観も、デジタル技術と本の力を活かして変えていけると確信しています。

エファは、「本の飢餓」を無くす取り組みに挑みます。生きていくための知識を学べる本。未知の世界に向けて扉を開き、想像力や共感力を育み、自分の生き方、道標さえも授けてくれる本。私たちと一緒に、この世界を本の力で変えていきましょう。



(写真はイメージです)

## エファのビジョン

すべての子どもたちが可能性と創造性を発揮し、「自分ものがたり」を描ける社会に。

ソカー君(仮名の物語)

お父さんが僕と同じ歳のとき、カンボジアは内戦のさなかだった。だから、小学校に通うことができなかったらしい。毎日、朝から日が暮れるまで畑を耕して、野菜を売りながら僕たち兄弟を育ててくれたお父さん。どれだけ疲れていても、一緒に水浴びをしてくれたお父さん。

お父さんが、お金をだまし取られた。一生懸命つくった野菜が、ただ同然で運ばれていく。サインをしてしまった一枚の契約書。「学校に行っていたら」「字さえ読めたら」そういつて悔し泣きする父の背中を見て、思った。

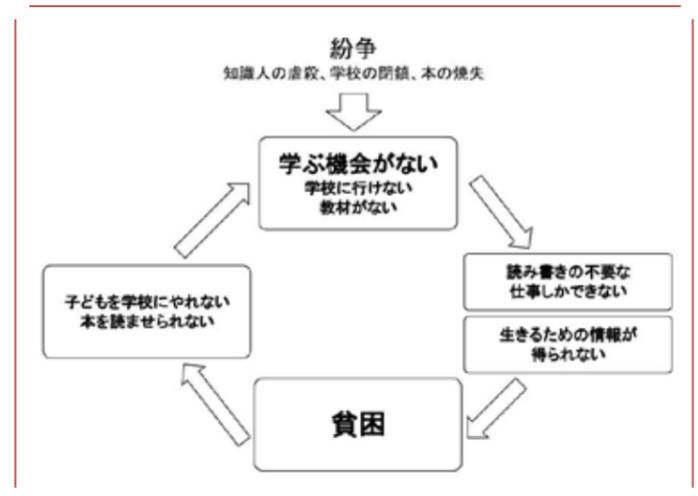
「どうか僕に、字をください」

僕が字を読めるようになり、お父さんのように悲しむ人をこの村からなくしたい。そのためにも、僕は本を読みたいんだ。

## エファが解決したい課題

### 親から子へと続く貧困

エファの活動地域であるカンボジア、ラオス、ベトナムでは、戦争のつめ痕が貧困や格差となって残っています。親から子どもへ引き継がれる貧困のスパイラルを断ち切るには子どもたちが自分の力で未来を拓くための教育が必要です。



### 小学校の卒業率でみられる格差



出典) Public Education Statistics & Indicators 2018 - 2019  
General Population Census of the Kingdom of Cambodia 2019 (2020年10月)

## 障害児・農村部の子どもの教育格差

障害児や農村部に暮らす子どもたちは教育機会が少なく、学習に必要な教材も著しく不足しています。エファはこうした子どもたちの成長にマッチした教育の機会を提供し、生きる力を培うための活動をしています。

発展途上国に暮らす障害者が利用可能な書籍(点字、音声、大活字本など)は非常に限られ、毎年出版される本の中でわずか1%以下と推定されます。世界盲人連合(WBU)はこの状況を「本の飢餓(book famine)」と名付けました。エファの活動地カンボジアでは過去30年に及ぶ内戦で学校や図書館が閉鎖され、書物は焼かれました。戦後、国立図書館に残ったクメール語の本はわずか500冊。子ども向けの本もゼロから作り直さなければならず、障害児のための教材は皆無に等しい状態です。

本は心と命の栄養です。障害がある子どもたちを取り残すことなく、すべての子どもたちが自ら豊かな心を育てていくための活動、「本の飢餓」をなくす取り組みを続けていきます。

「本の飢餓」とは